

## 虹のような社会を創るために

長野県蘇南高等学校長 小川幸司

### はじめに

日本漢字検定協会が全国アンケートによって決めている「今年の漢字」は、「戦」になりました。サッカーの世界・カップの戦いという意味もありますが、圧倒的な意味合いはウクライナ戦争の一年だったということにあるのだと思います。

しかし、「戦」という文字には、草木が風に静かに揺れる「戦（そよ）ぐ」という意味もあります。刀が激しくぶつかりあう意味をあらわす「戦」という文字を、いつのまにか人々は、草木が美しく揺れる意味にも使うようになったのです。

私たちは言葉を豊かに使うことによって、見えている世界を深く理解して、結果的に、自分が人々の幸せにつながるようになります。

### 1 「虹」は何色だろうか

今日は、今の生徒会のスローガン「虹」についてとりあげましょう。

雨上がりの空に浮かぶ美しい虹について、昔の人は生物が空を飛んでいると考えました。だから「虹」は「蛇」と同じ虫偏なのです。長い世界史のなかで、11世紀のイスラーム世界のイブン・シーナーなどの学者が、ものが目に見えるのは、ものから光線が目の中に入ってくるからだと考えようになり、その影響下に13世紀ヨーロッパのアルベルトゥス・マグヌスが、空気中の水滴によって光が屈折して虹ができると考えるに至りました。やがて17-18世紀に活躍した物理学者ニュートンが、虹の原理を解明して虹は7色だという定説をたてました。

ところがニュートンの生きた国イギリスでは、のちに虹は6色だという考え方が主流になります。ドイツや中国では虹は5色に数えます。現代の世界でも虹が何色あるのかという見方は多様です。パプアニューギニアなどでは虹を2色に数えるそうです。なぜ同じものを見ているのに数え方が違ってくるのでしょうか。ひとつの理由に、日本語が色について細かく表現することばをつくりだしてきたということがあるでしょう。

日本の虹の数え方は、赤・橙・黄・緑・青・藍・紫の7色です。アメリカやイギリスでは、青と藍がひとつにカウントされ、ドイツでは青と藍と紫がひとつにカウントされます。



清内路峠で見つけた二重の虹

つまり、日本語は「戦」といういさましい文字にやさしい意味合いをこめたのと同じように、色についても多様性のある表現方法をうみだしてきました。それによって私たちは目の前の「虹」が「たくさん色が一緒に輝いている光景」に見えて、感動できるのです。

## 2 人間の性の多様性

9月の全校集会で皆さんにお話したジェンダーの問題をここで振り返ってみます。

人間は「男」と「女」のどちらかだというのはことばの限界であって、人間の男女はもっと多様でグラデーションがかかっているものです。

- ①身体的な性（セックス）
- ②社会的・文化的な性（ジェンダー）
- ③性自認（自分の性をどう認識するか）
- ④性指向（恋愛や性愛の対象となる性）

…この四つがくみあわさって、私たちの性が構成されてくるのでした。現代社会において、少数派だとしても、その存在がもっと尊重されるべきである **LGBTQ** とは、レズビアン、ゲイ（両者は性指向のありよう）とトランスジェンダー（身体的性と性自認の関係）と **Questioning**（自分の性のありかたを探究中）の人々を総称したことばです。**LGBTQ** の人は、人口の3～9%にのぼると言われているのに、普段は自分を否定的に見ることが多く、精神的にストレスフルな生活を余儀なくされているわけです。

この前の日曜日に、私は全国のお医者さんや医学部の先生たちの研究会に参加して **LGBTQ** の人々の悩みについて勉強しました。そのなかで当事者の方がこうおっしゃっていました。

——高校や大学での友人たちとのなにげない会話で、「誰のことをかっこういいと思う？」「どんなタイプが好き？」などの話題が出た時に、いつも嘘をつかねばならなかった。

私はこれを聞いて、何気ない会話かもしれないけれども、自分の心の大切なことに嘘をつかなくてはならないとは、どれほどつらいことだろうかと胸が痛くなりました。いっぽうで、2015年に一橋大学でゲイの学生から告白された男子学生が、そのことを周囲の友人たちにグループメールで明らかにしてしまい、ゲイの学生が校舎から転落死するという痛ましい事件もあります。また、トランスジェンダーの人を「オカマ」などと笑いの対象にする日本社会の文化が、**LGBTQ** の人々を苦しめています。

## 3 人権を守る制服のありかた

このような **LGBTQ** の人々の人権を守るために、もっと言えば、自分の周囲にいるかもしれない（声をあげられない）**LGBTQ** の友人を守るために、全国の中学・高校ではここ数年でジェンダーレス制服が広がってきました。男子も女子も基本的には同じ

デザインのブレザーを着用するというわけです。男子と女子では左右どちらが前かの違いがありますから、どちらでもボタンを付け替えられるようにして、服のシルエットは男女の体形の間にあわせて作られています。

確かに男女の明確な強制はなくなりますが、これは本当の解決につながるのでしょうか。ある幼稚園で、男の子が青い園児服、女の子がピンクの園児服に定められていることにジェンダーの強制を批判する声があがったとき、その幼稚園は園児服をひとつの色に統一しました。これも同じ発想です。

園や学校のなかでは同じ色の服・同じタイプの制服だから、違いは目立たないかもしれませんが、でも社会に出たときにどうなるのでしょうか。大切なのは、戸籍上は女性かもしれないけれども男性として生きたいという人が、男性としての自己表現をしたときに、「そういう人生も素敵だね」と心から受け入れるような感性・世界観を自分の中に育てていくことではないでしょうか。

そう考えると、ジェンダーレス制服に統一するのではなくて、制服の選択肢（オルタナティブ）を多様化して、ひとりひとりの生き方にあわせて選択できることを、お互いに尊重することではないでしょうか。

私たち教員は、制服を男女兼用一本化にするのか、選択肢の拡大化にするのか、3年生の総合探究ジェンダーレス班の皆さんと生徒会執行部の皆さんと話し合いました。生徒代表の皆さんの意見を、生徒会長の亀山さんから発表してもらいます。

#### 【制服改革についての生徒意見】（生徒会長・亀山さんより）

今後の制服のありかたを考える意見交換会で、制服を男女兼用に一本化すべきか、それとも選択肢を広げる方向で改革すべきかを、3年生のジェンダーレス班の皆さんと生徒会執行部で話し合いました。この会では、

- ・ 選択肢の拡大が、今年度の生徒会スローガン「虹」に合っている。
- ・ 単一化すると個性をつぶしかねない。
- ・ 単一化のものは押し付けられているように感じる。

等の意見が発表され、参加者の全員一致で「選択肢を拡大する制服改革案」を全校の皆さんに提案しようということになりました。

以上の議論をもとに、この一年の生徒会のスローガン「虹」にふさわしいような制服にするためには、「選択肢の拡大化」を全校の皆さんに提案します。

## 4 「虹」の高校をつくるための制服改革（提案）

そこで以下の具体的な制服改革の提案をします。全校集会終了後、生徒の皆さんにアンケートをとります。3年生は間もなく卒業するわけですが、よりよい蘇南高校を後輩たちに残すために一緒に考えてください。

#### 【制服改革案】

(1) 制服の上着は3タイプのなかからの選択制とします。

- ・ Aタイプ：男性の体形にあわせた左前シングルボタン（ウール生地）

- ・ Bタイプ：女性の体形にあわせた右前ダブルボタン（ウール生地）
  - ・ Cタイプ：男女の中間形で左右可能シングルボタン（ポリエステル生地）
- (2) ネクタイ（青、赤）、リボンは自由選択。
- (3) スカート・男性体形スラックス・中間形スラックスは自由選択。

これにより、たとえば、男性の身体であるけれども Bタイプの上着、場合によってはスカートも可能になります。同じように、女性の身体であるけれども Aタイプの上着・男性体形スラックスが可能になります。さらに言えば、LGBTQではない観点（たとえばファッションセンス）から Bタイプを着るということも可能になります。

最終的には全校アンケートをとり、皆さんの意見を参考にして決めたいので、次の三つのアンケートに答えてください。責任をもって回答をしてほしいので記名をしてください。

#### 【全校アンケート】

質問1 男女兼用一本化ではなく「選択肢の拡大化」という制服改革について

- ①改革に賛成    ②現状通りでよい    ③もっとよい私案がある（    ）

質問2 中間形スラックスの柄について

- ①男性体形のスラックスと同じ灰色  
②現状のチェック柄のままでよい。  
③自分にはどちらでもよい

質問3 Bタイプ（女性体形右前ダブルボタン）のボタンについて

- ①シングルボタンに改革したほうがよい  
②現状のダブルボタンのままでよい  
③自分にはどちらでもよい

以上がアンケートです。具体的な回答方法は、このあと生徒支援係の先生から連絡します。とても大切な提案なのでしっかり考えて回答してください。

#### おわりに

私たちが歩みだそうとしている方向は、男女の区別をなくすということではなく、男女を含めて性のありかたを柔軟に考え、場合によっては自由に選択できるようにすることになります。このことを探究した3年生の皆さんは、ジェンダーレス（ジェンダーをなくすこと）というよりも「ジェンダー平等」（どのジェンダーも抑圧から解放されること）が大切だと気づいたことになります。

こう言うと、「それでは男女が子どもをつくって日本社会を維持することを危機に陥らせるのではないか」という反論が聞こえてきそうです。これに対しては、世界の先進事例を見ても、多様な人々を認め合う社会になることで安心して子どもを育てられることになり、少子化に歯止めがかかることのほうが多いと補足しておきます。

また、この問題を考えるときには制服だけですべてが解決するわけではありません。たとえば、①トイレについて本館1階の多目的WCを「オールジェンダーWC」として使用できるようにしていきます。②更衣室について男女それぞれの部屋とは別に「オー

ルジェンダー更衣室」を設置していきます。これらは LGBTQ の人だけでなく、自分の身体の傷を人から見られたくないなど、多様なニーズに応えられるようなものにしていきます。改めて新年になってから連絡します。

そして、③人間は「虹」のような存在であり、さまざまな人（ジェンダーだけでなく民族とか障がいの有無なども）と一緒にこの社会を創っていくのだということ、その多様性をきちんと見つめられるような世界観をもっていくべきだということを、蘇南高校では大切にしていきたいですね。

来る 2023 年を、みんなで風に「戦ぎ」ながら、空にかかった美しい 7 色の「虹」を見上げるような一年にしていきましょう。